

I 中国史の各時代の社会経済に関して述べたA～Dの文を読み、設問1～9について解答を一つ選び、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

A 東アジアでは、前6000年ごろまでに黄河中・下流域で雑穀の栽培がおこなわれ、長江中・下流域でも稲の栽培がおこなわれた。前4000年代になると、黄河流域ではブタ・鶏・犬などの家畜を飼育する農耕集落が生まれ、長江流域では稲作を中心とする農耕集落が広がった。中国古代の農業生産に画期的な時期が訪れるのは鉄器の登場からである。春秋時代末期頃から使用され始める鉄製農具は、戦国時代中期以降になると社会に広まるようになり、さらに漢代になると一般農民にまで普及した。

設問1 下線部 a の新石器時代の長江下流域で、稲の籾殻や農具が大量に発見された集落遺跡はどれか。

- ① 半坡遺跡 ② 河姆渡遺跡 ③ 三星堆遺跡 ④ 二里头遺跡

設問2 下線部 b の「鉄器」に関して、不適切な記述はどれか。

- ① ヒッタイトは二頭立ての馬車と鉄器の使用で知られ、その滅亡後、オリエントの他の地域でも鉄器が普及した。
② インドではアーリヤ人の侵入以後に、鉄器が使われるようになった。
③ 中国では戦国時代になると重量有輪犁が普及し、家族単位の小規模の農業経営が広がった。
④ マヤ文明、インカ文明はついに鉄を知るところがなかった。

B 秦漢帝国の財政・軍事の基盤をなすものは自作農（小農民）であり、これらの小農民は耕作に従事すると共に、兵役や力役を課された。一方、前漢中期頃から大規模な農業経営を行うものも現れた。これが豪族である。彼らは没落農民を奴隷や小作人として土地開発をすすめ、私兵を養って地域社会に大きな勢力を築いた。漢ではたびたび大土地所有の制限が試みられたが、成果はあがらず、逆に彼らは官僚となって中央・地方の政界に進出していった。

設問3 下線部 c の「豪族」に関して、不適切な記述はどれか。

- ① 王莽の政治は社会を混乱させ、豪族の反抗や赤眉の乱などが続発した。
② 25年に劉秀が建国した後漢の実態は、豪族の連合体であった。
③ 黄巾の乱を契機に各地に豪族・武装勢力が乱立し、後漢は184年に滅亡した。
④ 画像が描かれた漢代のレンガ（画像磚）には、豪族の宏大な邸宅が表されている。

設問4 下線部 d の「大土地所有の制限」に対する歴代の王朝の政策に関して、不適切な記述はどれか。

- ① 前漢末、土地所有の制限に関する「限田策」が発布された。
② 魏の屯田制、晋の占田・課田法などは、国家が土地所有に介入し、農民を把握して土地を配分し、課税するものである。
③ 均田制は、北魏の太武帝のときに始まった。
④ 唐は隋で行われた均田制を引きついでいる。

C 後漢末から三国時代にかけて、華北から江南への移住者が急増し、五胡十六国時代以降、江南の水田開発が本格化する。宋代になると華北の水利・土木技術が導入され、新興の地主層は佃戸を使って水田造成をおこなった。低湿地には（あ）と呼ばれる水利田が国家や在地地主層の主導によって造成された。11世紀になると占城稲が導入され、台地や海岸部の水利の悪い土地に栽培された。そのため同世紀末には江南の水田の大部分がこの品種で占められるようになった。淮河以北の領土を金に奪われながら、南宋が約150年間政権を維持できたのは、江南を確保できたからである。江南では茶の栽培も盛んとなり、喫茶の風習が東アジアに普及した。

設問5 空欄（あ）に該当しないものはどれか。

- ① 圩田 ② 露田 ③ 畝田 ④ 湖田

設問6 下線部eに関連する事柄の中で、不適切な記述はどれか。

- ① 金は遼を滅ぼした後、華北に侵入して宋を滅ぼし、上皇徽宗、皇帝高宗らを北方に連れ去った。
② 皇帝の弟が江南に逃れて即位し、臨安（現在の杭州）を都として宋を再建した。
③ 宰相秦檜の主導する和平派は、主戦派の岳飛らを抑えて金と講和した。
④ 南宋は淮河・長江の守りによって、金の攻勢をしのいだ。

設問7 下線部fの「喫茶の風習」が全国的に庶民層にまで広まったのは、いつ頃か。

- ① 戦国時代 ② 漢代 ③ 六朝時代 ④ 唐代

D 明代中期以降、江南では農村の副業として綿織物・絹織物・養蚕・製糸業などの手工業が発達した。とくに綿織物は南京木綿の名で海外にまで輸出された。それらは農民に貴重な現金収入を得る機会を与えた。このような農村手工業の発達によって、江南デルタでは水田が綿や桑の栽培にきりかえられ、長江中流域の湖広地方が新たな穀倉地帯となった。江南の都市では手工業の規模が拡大して、商品が大量に生産され、四川や福建の茶の栽培、景德鎮の陶磁器など、諸地域でも産業が発達した。

設問8 下線部gの一つで、絹織物業で繁栄し、明代経済の中心地となった都市はどれか。

- ① 揚州 ② 泉州 ③ 蘇州 ④ 広州

設問9 下線部hに関して、不適切な記述はどれか。

- ① 景德鎮は現在の江西省北東部に位置する陶磁器生産地である。
② 景德鎮は宋元時代に発達し、明清時代には国営の工場が建てられた。
③ 景德鎮では青磁・白磁・染付・赤絵など多くの焼き物を産出した。
④ 染付のコバルト顔料は日本からもたらされ、明代に景德鎮で完成した。

II 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

古代や中世の経験は近代世界の形成に影響を与えてきた。その例として、アメリカ独立革命やアメリカ合衆国の形成について見てみよう。

① トマス＝ジェファソンはイギリス中世史にアメリカ独立革命の理念を見出した。とりわけ彼がしたがったのはホイッグが示すイギリス中世史についての解釈である。それによれば、アングロ＝サクソン社会はタキトゥスの『ゲルマニア』に示される民主制を特徴としたが、③ ノルマン＝コンクエストにより強力な王権が支配する社会に変貌した。ジェファソンは、中世初期のアングロ＝サクソン社会への回帰、イギリスの王権支配からの脱却、民主制社会の復興、これらをアメリカ独立革命の理念としたのである。

第2代アメリカ大統領となるジョン＝アダムズは、④ ボストン茶会事件にたいしイギリスが行った措置に反対して、マケドニアのギリシア支配に抵抗したデモステネスそしてローマ共和政末期のキケロを例に挙げ、イギリスへの抵抗を論じた。ジェファソンは、このアダムズを、独立戦争の指導者として、⑤ ペルシア戦争で活躍したテミストクレスに匹敵させている。専制支配への抵抗・闘争としてアメリカ独立戦争をペルシア戦争に重ね合わせる認識は、革命期には多数見出される。このように、専制権力への抵抗という西洋史の伝統の中に独立革命が位置づけられたのである。

⑥ アメリカ合衆国憲法の制定・批准を巡る議論にも、西洋古典への言及が頻繁に見出される。例えば、連邦派、反連邦派、それぞれが、西洋古典の人物名をペン・ネームとして、論文を発表した。これは、自らの立場・主張が古代から名

声を保ち続けてきた人物と同じであり、古代以来の伝統に連なることを示すためである。ある反連邦派の人物は、自身が共和制の維持者であることを示すために、^⑦カエサルを暗殺したブルトゥスを名乗った。他方、アメリカ合衆国憲法の批准を求める論文集は、^⑧王政を打ち倒しローマ共和政を樹立した人物とされるプーブリウスの筆名で発表された。この論文集の執筆者の一人であるハミルトンは、1803年に、^⑨ペロポネソス戦争を素材に、フランスとの開戦の可能性を論じている。

このように、歴史に見出されるさまざまな事件・人物を範例として、アメリカ独立革命そしてアメリカ合衆国の建設は達成されたと考えることもできよう。

設問 1 下線部①について、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ジェファソンが起草した独立宣言は、フランクリンやジョン＝アダムズによって補筆・修正され、第2回大陸会議で採択された。
- イ ジェファソンはヴァージニアの都市商人の出身で、大規模な通商交易を奨励し、農業生産の拡大には消極的だった。
- ウ ジェファソンはジョン＝アダムズに次いで第3代大統領に就任した。
- エ ジェファソンは、大統領として、ミシシッピ以西のフランス領地域をナポレオンから購入し、国土を倍増させた。

設問 2 下線部②に関し、ホイッグが形成された17世紀後半のイギリスの状況について、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア クロムウエルの息子リチャードの護国卿政治に不満が募り、信仰の自由などを「ブレダ宣言」で表明したチャールズ2世がオランダから帰国した。
- イ チャールズ2世の弟ジェームズの王位継承権を認める人々がトーリと呼ばれた。
- ウ 正当な理由のない逮捕・拘禁を防止しようとする人身保護法が制定された。
- エ アイルランド出身のスウィフトは、当時の社会や政治情勢を風刺する『ガリヴァー旅行記』を発表した。

設問 3 下線部③について、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ノルマンディー公ウィリアムが、イングランドに上陸し、ヘースティングズの戦いでイングランド軍を打ち破った。
- イ ノルマン＝コンクエスト当時のイングランドは、クヌート（カヌート）の開いたデーン朝の支配下にあった。
- ウ ノルマンディー公ウィリアムは、ウィリアム1世として即位し、ノルマン朝を創始した。
- エ ノルマンディー公ウィリアムは、ロロが建国したノルマンディー公国も統治したため、英仏海峡をまたぐ支配を実現した。

設問 4 下線部④について、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 1773年、イギリスは、東インド会社がアメリカ13植民地で販売する茶を免税とする茶法を制定し、アメリカ植民地商人たちの大きな反発を招いた。
- イ 茶法に反対する人々は、1773年、ボストン港に停泊していた東インド会社船の積載する茶箱を海に投げ捨てた。
- ウ ボストン茶会事件にたいしイギリス軍が派兵され、1774年、コンコードで植民地人との武力衝突が生じた。
- エ 1774年、第1回大陸会議が開催され、イギリスにボストン茶会事件にたいする弾圧をやめるよう求めた。

設問5 下線部⑤について、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アテネの北東に位置するマラトンで、アテネとスパルタの連合軍が、ペルシア軍を撃破した。
- イ レオニダス率いるスパルタ軍は、テルモピレーの守備に当たったが、全滅した。
- ウ ギリシア連合艦隊は、テミストクレスの指揮の下、サラミス水道でペルシア艦隊を撃破した。
- エ ギリシア連合軍がプラタイアでペルシア軍を打ち破ると、戦争の帰趨が決せられた。

設問6 下線部⑥について、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アメリカ合衆国初の成文憲法であるアメリカ連合規約は、強力な権限を持つ連邦政府を定めた。
- イ 各州の自治権や権限の維持を主張し、農業的利益を重視した人々は、反連邦派と呼ばれた。
- ウ アメリカ合衆国憲法では、行政・立法・司法の三権を異なる機関に委ねることで、互いに牽制させ権力の均衡を図る、三権分立が定められた。
- エ アメリカ合衆国憲法では、行政府の長として、任期4年で間接選挙により選出される大統領職が定められた。

設問7 下線部⑦について、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 元老院に対抗して、ポンペイウス、クラッススと共に、第1回三頭政治をおこなった。
- イ ポンペイウスを打倒して終身ディクタトルに就任し、独裁をおこなった。
- ウ 太陰暦だったローマの暦を改革し、太陽暦と太陰暦を融合したユリウス暦を導入した。
- エ アウグストゥスの称号を前27年に元老院から授けられるオクタウィアヌスを養子にした。

設問8 下線部⑧に関し、ローマ王政末期からローマ共和政初期のローマの状況について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア エトルリア人が王となりローマを支配したが、前6世紀末にローマから追放された。
- イ 共和政の成立により、王に代わって定員2名・任期1年のコンスルが就任することになった。
- ウ 公職就任を独占するパトリキにたいし、プレブスは護民官を設置して身分闘争を展開した。
- エ 全男性市民により構成される民会が、立法・条約締結等の議決、公職就任者への助言をおこなった。

設問9 下線部⑨に関し、前5世紀および前4世紀のギリシアの状況について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ペルシアの再侵攻に備えてアテネを盟主として前478年にデロス同盟が結成され、これに対抗して、スパルタを盟主とするペロポネソス同盟が結成された。
- イ アテネは、ペリクレスの指導により有利にペロポネソス戦争を進めたが、疫病のためペリクレスが死亡した後は、デマゴーゴス（デマゴグ）による衆愚政となった。
- ウ スパルタは、ペロポネソス戦争末期にペルシアの援助を得てアテネを攻撃し、アテネは前404年に降伏した。
- エ テーバイ（テーベ）は、前371年にレウクトラの戦いでスパルタに勝利し、ギリシアにたいする覇権を得た。

Ⅲ 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

ヨーロッパ大陸の西端に位置するポルトガルの地は、先史時代のクロマニヨン人の遺跡なども残されており、古くから人類の文明・文化の交流の場であった。紀元前10世紀ごろには、①フェニキア人が海岸部に到達して青銅器文明をもたららし、次いでギリシア人の植民市も築かれた。この地の内陸部には当時イベリア人が定住していたが、その後ピレネーを越えたケルト人の侵入をうけた。紀元前2～前1世紀ごろに、ローマによってイベリア半島の支配権が確立すると、ローマ化が進んだ。5世紀にはイベリア半島でゲルマン民族の本格的な侵入が始まり、ポルトガルの南部はトレドを都とする西ゴート王国の支配下に入った。8世紀初めには、これに代わって②北アフリカからイスラーム勢力が進出し、8

世紀半ばからは後ウマイヤ朝の領土となり、イスラーム文化が栄えた。

一方、8世紀前半には、キリスト教徒たちによるレコンキスタ（国土回復運動）も北部から徐々に進められた。そして、12世紀にはポルトカーレ伯のアフォンソ＝エンリケスがポルトガル王アフォンソ1世を名乗って国土の統一に努め、1143年にカステイリャ王国の宗主下でポルトガル王国を成立させた。1249年にポルトガルのレコンキスタが完了したため、キリスト教勢力を押し進める動きは、次に海の向こうへと拡げられていった。1415年に、「航海王子」と呼ばれるエンリケが北アフリカにあるイスラーム勢力の拠点である **A** を攻略すると、これを足掛かりにポルトガルの海外進出が本格化した。大航海時代の始まりである。当時の東方貿易（レヴァント貿易）は、イタリア諸都市やオスマン帝国によって独占されていたため、ポルトガルの航海者は、アフリカ大陸西岸を南下する航路を開拓してアジアに進出し、他方、スペインと並んで新大陸への攻略にいち早く乗り出した。

1580年に、王家断絶を機にポルトガルはスペインに併合されたが、1640年の王政復古戦争により独立を回復した。しかし、17世紀以降のポルトガルはスペインと同様、イギリス、オランダさらにはフランスのような新興国に経済的・政治的におくれをとるようになり、後進国に転落した。19世紀初めにナポレオン軍が侵略した折に、国王一族がブラジルに一時逃亡し、1821年に帰国することで独立を回復したが、翌年にはブラジルが独立を宣言したため、ポルトガルは大きな打撃を受けた。1910年についに革命がおこり、ポルトガルの王政は打倒され共和政が成立したが、クーデタや政権交代が相次ぎ不安定な時代が続いた。1932年に首相となった **B** の下では独裁体制がとられ、スペイン内戦ではフランコを支持し、第二次世界大戦では中立を守った。戦後のポルトガルは米・英に接近して、NATOにも加盟したが、経済的に行き詰まり、1974年に、軍を中心に無血クーデタ（カーネーション革命）が行われ、その後民主化が進められた。また1986年にはEC（ヨーロッパ共同体）に加盟し、1999年にはユーロを導入したが、ポルトガルは、EU（ヨーロッパ連合）加盟国の中では経済水準が低く、多くの問題を抱えている。

設問1 下線部①に関連して、次の1～4の説明の中から、フェニキアについて述べたものとして、正しいもの一つを選びなさい。

- 1 フェニキア人はインド＝ヨーロッパ語系民族であり、海上貿易で活躍した。
- 2 フェニキア文字は、母音と子音から成り、のちにアルファベットに発展した。
- 3 フェニキア人は地中海東岸に、シドンやティルスなどの海港都市国家を建設した。
- 4 フェニキア語は、フェニキア人の活動によって、オリエントの共通語となり、イエスも使用した。

設問2 下線部②に関連して、北アフリカのイスラーム王朝について述べた次の1～4の説明の中から誤っているもの一つを選びなさい。

- 1 アッバース朝のエジプト総督代理であったイブン＝トゥールーンが、9世紀後半にエジプトにトゥールーン朝を建てた。
- 2 シーア派の一派が、10世紀初め北アフリカにファーティマ朝を建て、エジプトを征服して新首都カイロを造営した。
- 3 第4代正統カリフであるアリーの子孫が、8世紀後半にベルベル人の支持を得て、モロッコにイドリース朝を建てた。
- 4 サラディンは、12世紀後半にカイロを都として、シーア派のアイユーブ朝を建てた。

設問3 下線部③に関連して、次のそれぞれ3つの土地や地域の組み合わせの中から、ポルトガルがアジアに進出した場所の組み合わせとして正しいものはどれか。次の1～4から一つを選びなさい。

- 1 ボンベイ、カルカッタ、ボンディシェリ
- 2 カリカット、ゴア、マカオ
- 3 マドラス、マニラ、アンボイナ
- 4 マラッカ、バタヴィア、シャンデルナゴル

設問4 下線部④に関連して、16～18世紀のスペイン・イギリス・オランダ・フランスについて述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 スペイン王フェリペ2世は、皇太子時代にイギリス女王メアリ1世と結婚したが、ネーデルラントに対するカトリック政策を強化して、オランダ独立戦争を招いた。
- 2 テューダー朝のイギリス女王エリザベス1世は、国王至上法（首長法）を初めて定め、国王がイギリス国内の教会の首長であることを宣言した。
- 3 ネーデルラント北部7州によってネーデルラント連邦共和国が建てられ、オラニエ公ウィレムが総督となった。
- 4 ルイ13世の宰相リシュリューは、王権に抵抗する貴族をおさえて三部会を招集せず、三十年戦争の際には新教側に立ってハプスブルク家に打撃を与えた。

設問5 下線部⑤に関連して、19世紀における南米諸国の独立について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ベネズエラ出身の指導者シモン＝ボリバルは、南米の独立運動を指導し、1819年に大コロンビア共和国を樹立して大統領となった。
- 2 ブラジルでは、ポルトガル皇太子ペドロが皇帝に即位し、ブラジル帝国として独立したが、この国は第二次世界大戦まで帝政を維持した。
- 3 ペルーでは、サン＝マルティンの指導で、1821年に独立が宣言された。
- 4 メキシコでは、イダルゴの蜂起で独立運動が始まったが、1821年にスペインと条約を結んで独立が達成された。

設問6 下線部⑥に関連して、EC（ヨーロッパ共同体）とEU（ヨーロッパ連合）について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 1967年に、ECSC（ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体）とEEC（ヨーロッパ経済共同体）とEURATOM（ヨーロッパ原子力共同体）の3共同体の機関が統合されてEC（ヨーロッパ共同体）となった。
- 2 イギリスは当初EEC（ヨーロッパ経済共同体）には加盟せず、1973年に、アイルランド・デンマークと共にEC（ヨーロッパ共同体）に加盟した。
- 3 1992年にオランダのマーストリヒトで調印された条約に基づいて、1993年にEU（ヨーロッパ連合）が設立された。
- 4 2007年に調印され、2009年に発効したローマ条約によって、EU（ヨーロッパ連合）大統領職が新設されるなど、政治統合が進められた。

設問7 に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 セウタ 2 カサブランカ 3 アガディール 4 ジブラルタル

設問8 に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 マルロー 2 バティスタ 3 サラザール 4 ラス＝カサス

Ⅳ 第二次世界大戦後の東アジアに関する以下の文章を読み、設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

1945年、日本が無条件降伏を受け入れ、アジア太平洋戦争が終結すると、東アジアには新たな国際秩序が形成されることになった。^a

30年以上にわたり日本の植民地統治下にあった朝鮮半島は、北緯38度線を境にソ連、アメリカによって分割管理され、やがて **A** の道を歩むことになった。

抗日戦争を展開してきた中国では、日本の降伏後、国民党と共産党が再び対立し、国共内戦が起こった。1949年春に南京が陥落し、共産党が勝利すると、毛沢東を主席、周恩来を首相にして同年10月に中華人民共和国が建国された。国民党の一部は台湾に渡り、独自の政府をつくった。^d

抗日運動は朝鮮半島や中国で盛んであったが、日本の軍事的、政治的支配下にあった東南アジア諸国においても、抗日ナショナリズムが広がり、戦後、独立を求める動きが加速した。インドネシアやベトナムは、日本の降伏後、すぐに独立を宣言し、フィリピンやビルマもまた独立国となった。しかし、ヨーロッパの旧宗主国がかつての植民地体制を復活させようと、こうした動きに軍事介入を図った。17世紀からインドネシアに進出していたオランダは、その独立を認めようとせず、4年にわたる武力闘争の後、1949年にインドネシア共和国の独立を承認した。ベトナムでは、19世紀にこの地を植民地化したフランスが独立を認めず、インドシナ戦争が起こり、1954年のジュネーブ会議で休戦協定が結ばれるまで、旧宗主国との戦いは続いた。英領マレーでは、1950年代後半になってようやくマラヤ連邦がイギリスから独立を遂げた。このように、東アジアにおいては **B** の時代に終止符が打たれるのに時間を要した。

設問1 下線部 a について、戦後日本社会において1951年の日米安全保障条約の締結以前に行われたものを一つ選びなさい。

- イ 東京裁判閉廷 □ 自衛隊創設 ハ 原水爆禁止世界大会 ニ 国連加盟

設問2 下線部 b について、以下の記述のうち最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ 三・一独立運動後に天皇直属の機関となった朝鮮総督府は、GHQにより解体された。
□ 大韓民国の大統領に就任した李承晩は、日韓基本条約に調印した。
ハ 朝鮮労働党を率いる金日成は、朝鮮民主主義人民共和国を建国し、1972年の主席退任まで独裁体制を敷いた。
ニ 北緯38度線近くに位置する板門店では、1950年に勃発した朝鮮戦争の休戦会談が行われた。

設問3 下線部 c について、以下の記述のうち最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ ソ連をはじめとした社会主義諸国はこの国をただちに承認したが、アメリカや日本が正式に認めたのは1960年代になってからだった。
□ 抗日統一民族戦線に参加した毛沢東は、共産党の指導者として農村改革を進めて支持を広げ、1950年までに農民の土地所有権を保護する大躍進政策を成功させた。
ハ 周恩来首相は、インドのネルー首相と会談し、領土・主権の尊重、内政不干涉、平和的共存などからなる平和五原則を共同で発表した。
ニ 国連の常任理事国となった中華人民共和国は、ソ連とともに北朝鮮への国連軍派遣を提案し、朝鮮戦争の終結を図った。

設問4 下線部 d について、日本の植民地時代から20世紀末までの台湾に関する以下の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ 17世紀後半の鄭氏台湾の時代を経て、清の領土となっていた台湾は、日清戦争後、日本の植民地になった。
- ロ 下関条約後に設置された台湾総督府は、国民党の機関となり、台湾における産業の育成や交通の近代化を進めた。
- ハ 蒋介石は中華民国政府を台北に置き、ソ連と協調路線を築くことで中華人民共和国への対立を深めた。
- ニ 中国大陸から移住した「外省人」が台湾の政界を占め、台湾生まれの「本省人」が総統など要職に就任することはなかった。

設問5 下線部 e について、以下の記述のうち最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ 16世紀以来、スペインがこの地を統治していたが、19世紀初頭には、フランス革命の余波を受けて、ホセ＝リサル率いる民族独立運動が盛り上がりを見せた。
- ロ 19世紀末にキューバの領有をめぐるスペインに勝利したアメリカは、フィリピン＝アメリカ戦争を経て、フィリピンを植民地にした。
- ハ 1940年代にレイテ島沖でアメリカ軍に勝利した日本は、フィリピンを大東亜共栄圏下に収めた。
- ニ 1945年に日本が降伏すると、フィリピン共和国は独立したが、アメリカは抗日人民軍出身の大統領を認めなかった。

設問6 下線部 f について、それまでに起った出来事を年代順に正しく並べたものを一つ選びなさい。

- イ インドネシア国民党結成 ⇒ オランダ当局によるスカルノ逮捕 ⇒ インドネシア共産党結成 ⇒ 日本軍侵攻
- ロ インドネシア共産党結成 ⇒ インドネシア国民党結成 ⇒ オランダ当局によるスカルノ逮捕 ⇒ 日本軍侵攻
- ハ 日本軍によるスカルノ釈放 ⇒ 日本降伏 ⇒ 東ティモール併合 ⇒ スカルノによる独立宣言
- ニ スカルノによる独立宣言 ⇒ 東ティモール併合 ⇒ オランダ軍撤退 ⇒ 国連による独立承認

設問7 下線部 g について、以下の記述のうち最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ フランスは、日本降伏直後にバオダイが建国したベトナム民主共和国の独立を認めなかった。
- ロ フランス軍は、ベトナム北西部のディエンビエンフーをベトミン軍により包囲され、降伏した。
- ハ ベトナム独立同盟を結成したホー＝チ＝ミンは、インドシナ戦争後、ベトナム民主共和国大統領に就任した。
- ニ フランス軍の撤退後、反米的なゴ＝ディン＝ジエム政権に対してアメリカが宣戦し、第二次インドシナ戦争（ベトナム戦争）が勃発した。

設問8

A

 ,

B

 に入る適当な語句の組み合わせについて、一つ選びなさい。

- イ 軍事政権 社会主義 ロ 軍事政権 民族主義 ハ 民族分断 資本主義 ニ 民族分断 帝国主義

V 17世紀末からロシアは、不凍港を求めて、黒海のアゾフを陥落させるなど、いわゆる「南下政策」を実行したが、その後「東アジアへの進出」を試みるどころとなった。18世紀から19世紀末までの時期におけるロシアの「南下政策」の経緯と「東アジア進出」について、以下の語句をすべて用いて、250字以上300字以内で説明しなさい。なお、句読点、数字は1字に数え、指定の語句には必ず下線を付しなさい。

クリミア戦争

サン＝ステファノ条約

ベルリン条約

北京条約

〔以下余白〕